

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
東京メディカル・ スポーツ専門学校	平成20年8月1日	関口 正雄	〒134-0088 東京都江戸川区西葛西3-1-16 (電話) 03-5605-2930			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6-16-2 (電話) 03-3688-6161			
目 的	医療人としてのマインド、理学療法士としての知識、技術を持ち、常に発展、成長し続けることができる。また、健康・スポーツをキーワードとして地域社会に貢献できる理学療法士を養成する					
分野	課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門課程	理学療法士科II部	4年(夜)	3180単位時間 (又は単位)	平成22年文部科学 大臣告示153号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1950単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	900単位時間 (又は単位)	330単位時間 (又は単位)
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		133人	6人	21人	27人	
学期制度	■前期：4月1日から9月30日 ■後期：10月1日から3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 授業ごとの小テスト及び期末試験でC以上を合格、Dを不合格	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月21日から8月31日 ■冬 季：12月21日から1月9日 ■春 季：3月12日から4月7日			卒業・進級条件	試験の成績、学習状況、出席状況を総合判断し修了認定	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任、学科長の個人及び三者面談			課外活動	■課外活動の種類 介護予防教室の教員サポート ■サークル活動 (有・無)	
主な就職先	■主な就職先、業界 病院・老人保健施設 ■就職率 ^{※1} 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} 100% ■その他(任意) (平成25年度卒業者に関する平成3年3月時点の 情報)			主な資格・検定	理学療法士 心肺蘇生法技能検定 福祉住環境コーディネーター	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者6名 ■中退率4.7%</p> <p>平成25年4月1日在学者 135名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者 129名（平成26年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 目的意識の喪失や精神的不安定</p> <p>■中退防止のための取組 入学前から卒業までのフロー教育及びサポートアンケートの分析による要支援学生の対応や教員の研修を年間を通して実施している。</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://www.tokyo-medical.ac.jp/</p>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

学園の基本方針である、業界からの信頼を得るために業界が望む技術、スキル、考え方、マナーなどをしっかりと習得させる。理学療法士科は、外部で臨床実習を行うため、現場の理学療法士を接する機会が多い。実習前のバイザー会議（年2回）や実習先訪問時には、専任教員が直接、業界の求める人材についてヒヤリングしそれを持ち帰り学科内で話し合い次年度の教育課程に反映する。また、キャリアセンターなどと情報を共有し、就職活動などにフィードバックしている。キャリア教育にも力を入れ、社会的・職業的自立に向け必要な知識・技術・態度をつける教育も行っている。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年6月1日現在

名 前	所 属
伊藤 譲	日本体育大学
石井 哲平	ムーブアクション株式会社
新田 数樹	ムーブアクション株式会社
高井 豊	医療法人社団森山医会
市川 繁之	国際PNP協会
平田 豪成	学校法人滋慶学園
古島 昭博	学校法人滋慶学園
関口 正雄	東京メディカル・スポーツ専門学校
妻木 充法	東京メディカル・スポーツ専門学校
中嶋 すぎ子	東京メディカル・スポーツ専門学校
伊藤 尚司	東京メディカル・スポーツ専門学校
鳥海 崇	東京メディカル・スポーツ専門学校
富永 賢介	東京メディカル・スポーツ専門学校
佐藤 俊生	東京メディカル・スポーツ専門学校

(開催日時)

第1回 平成26年6月19日 12:45～14:15

第2回 平成26年10月23日 15:00～17:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

理学療法教育における臨床実習は、知識・技術の講義や学生相互の実習で行った学内教育と臨床実習の現場で統合することを目的としています。臨床実習を通して、理学療法士の役割と責任を理解した自覚のある行動ができるようすることを目的としています。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床評価実習	臨床現場において実習指導者監督の下、情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案までの実習を行う。	筑波記念病院・野田病院・(医)健佑会いちほら病院・塩田病院・成田病院 他28施設
臨床総合実習	理学療法士としての基本的態度を習得し、理学療法の課程(情報収集、問題点の抽出、目標の設定、理学療法プログラムの立案、理学療法プログラムの実施、再評価)を体験し学習する。また問題解決能力を向上する。	筑波記念病院・野田病院・(医)健佑会いちほら病院・塩田病院・成田病院 他28施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

様々な実習現場（将来の学生の職場）を現場職員から学ぶことを方針とし、実習施設の職員（実習指導者）と共に、実習教育に対する相互理解および、教育現場と実習現場間の連携向上を図る。専門職業人教育に就くための学生支援のあり方とその実践は必要不可欠なものとした方針のもと、研修制度と内容、資格制度を学園グループの研究機関が開発している。当該研修は教員の専門性や経験に合わせ、年間計画のもと実施している。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 25 年 11 月 1 日現在

名 前	所 属
牛込 公一	ポラリス整骨院
安達 史枝	(株)羽田情報サービス
田中 英里	行船管理有限会社
森 章	拓殖大学紅陵高等学校
藤野 浩一郎	一般社団法人TMG本部
宇梶 義男	ムーブアクション株式会社
高井 豊	医療法人社団森山医会

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.tokyo-medical.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.tokyo-medical.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法士学科Ⅱ部) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			情報基礎	(初級)ワード、エクセルについて理解する。 (中・上級)情報処理・整理の基礎を学ぶ。 集中授業にて実施。	1通	45	3	○		
○			生物学	生物のメカニズムを理解する。	1前	30	2	○		
○			保健体育	リハビリトレーニングについて学ぶ。	1前	30	2	○		
○			心理学	心理学・カウンセリングの技法について理解する。	1前	30	2	○		
○			文章表現	正確な文章を第一の目標に、文章を書くことを通じて、患者に接するやさしさ、人間的な思いやりを育み、医療人としての人間性や感性を高める。	1後	30	2	○		
○			解剖学Ⅰ	理学療法士として必要不可欠な人体の成り立ちや形態、構造について学ぶ。	1通	150	10	○		
○			生理学	医療従事者として、理学療法士が習得しておかなければならない人体生理反応を学ぶ。	1通	60	4	○		
○			運動学	人間の運動を分析する基礎的な学問、筋・骨格系の運動様式を理解し、運動障害の評価治療に活かす。	1通	120	8	○		
○			人間発達学	身体・運動の発達を、胎児から成長過程を質的变化の過程を学ぶ。	1後	30	2	○		
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの概念と歴史、リハビリテーション医学と基礎医学、リハビリテーション医学の評価と診断について学ぶ。	1前	15	1	○		
○			医学概論	医学の原点とその発展を学ぶ。	1前	15	1	○		

○		理学療法概論	理学療法の概要を解説するとともに、運動療法の概念を解説し、基礎的運動療法の方法について解剖生理学的背景を吟味しながら解説する。	1前	60	4	○		
○		理学療法評価概論	理学療法の対象となる障害の範囲と性質及び各障害に対する理学療法評価の原理・信頼性・妥当性を検討する。	1後	30	2	○		
○		実習教育Ⅰ	実習で必要となる知識・技術の習得をはかる。	1後	30	2	○		
○		倫理学	現代医療における臓器移植、尊厳死など生と死の問題を倫理的に理解する。	2前	30	2	○		
○		解剖学Ⅱ	理学療法士として必要不可欠な人体の成り立ちや形態、構造について学ぶ。	2前	30	2	○		
○		内科学	理学療法士に求められる基本的な内科学知識について学ぶ。	2通	60	4	○		
○		整形外科学	理学療法士に求められる整形外科学に関する知識について学ぶ。	2通	60	4	○		
○		神経内科学	理学療法士に求められる神経内科学に関する知識について学ぶ。	2通	60	4	○		
○		病理学	疾患の病因・病態を病理形態学的変化から理解し、疾患発生に関する基礎的知識を学ぶ。	2前	30	2	○		
○		病態運動学	基礎的運動学知識をさらに発展・統合し、臨床における諸現象をより実践的に理解し、理学療法の理論的根拠を学習する。	2前	30	2	○		
○		理学療法検査・測定法	形態測定、運動機能測定、検査法の理論を学ぶ。	2通	60	4	○		
○		運動療法学Ⅰ	運動療法の基礎理論を学ぶ。	2通	60	4	○		
○		物理療法学	物理療法の歴史を学び、物理療法を実施するために必要な生理学、病理学等の基本を理解する。温熱・水治・牽引・マッサージの各療法の原理と目的、適応と禁忌、リスク管理を学習する。	2前	30	2	○		
○		医学英語	医療に関する簡単な英文・文法・発音等を学ぶ。 集中授業にて実施。	2後	15	1	○		
○		臨床心理学	心理学、精神医学などの知見や理論を用いて、こころの問題を抱えた人の理解と援助の方法を学ぶ。	2後	30	2	○		

○		疾患別理学療法Ⅰ	各疾患別に起因する運動障害の成因・病態・回復過程・予後に関する知識から、それを基にした機能障害の回復促進・残存障害及び障害予防に対する理学療法を学習する。	2後	30	2	○		
○		疾患別理学療法実習Ⅰ	脳・血管系の疾患に対する理学療法を、その疾患特有の評価から治療テクニックまで実践を通し学ぶ。	2後	30	1			○
○		物理療法学実習	物理療法機器に関する基本的操作方法を理解した上で実習する。	2後	30	1			○
○		義肢装具学	義肢装具の基本的構造と機能について学び、適合方法について学ぶ。	2後	30	2	○		
○		実習教育Ⅱ	実習で必要となる知識・技術の習得をはかる。	2後	30	2	○		
○		外科学	理学療法を行うに必要な外科学知識について学ぶ。	3前	30	2	○		
○		小児科学	小児についての一般的考え方、見方、病気の概要について学ぶ。	3前	30	2	○		
○		理学療法検査・測定法実習	形態測定、運動機能測定、検査法の実践。	3前	60	2			○
○		運動療法学Ⅱ	運動療法の基礎理論を学ぶ。	3前	30	2	○		
○		疾患別理学療法Ⅱ	各疾患別に起因する運動障害の成因・病態・回復過程・予後に関する知識から、それを基にした機能障害の回復促進・残存障害及び障害予防に対する理学療法を学習する。	3前	30	2	○		
○		日常生活動作学	基本的な日常生活活動（動作）を分析し、障害に伴う能力障害に適応し、その問題解決のための基本的技術を習得する。	3前	30	2	○		
○		義肢装具学実習	義肢装具の基本的構造と機能、適合方法について学んだ上で実習を行う。	3前	30	1			○
○		実習教育Ⅲ	実習で必要となる知識・技術の習得をはかる。	3通	60	4	○		
○		運動療法学実習	運動療法の基礎理論を理解した上で、基本的動作訓練の技術を習得する。	3通	60	2			○

○		疾患別理学療法学実習Ⅱ	疾患に対する理学療法を、その疾患特有の評価から治療テクニックまで実践を通し理解する。	3 通	60	2				○
○		老年学	超高齢化社会を迎えようとしている現代社会の現状を認識し、問題点を解決する為の基礎を学ぶ。	3 後	30	2	○			
○		精神医学	理学療法士に求められる精神医学に関する知識について学ぶ。	3 後	30	2	○			
○		リハビリテーション医学	リハビリテーションの対象である疾病・障害について正しく理解し、治療すべき障害を的確に治療手段を選択できることを学ぶ。	3 後	30	2	○			
○		日常生活活動学実習	人間の日常生活活動（動作）を理解し、障害に伴う能力障害への諸問題を分析し、問題解決の基本的知識・技術を学習する。	3 後	30	1				○
○		生活環境学	障害者、高齢者が自立した生活をするための生活環境整備・改善の支援について、リハビリテーションの視点から学習する。	3 後	30	2	○			
○		地域リハビリテーション論	地域リハビリテーションの定義、活動概念、直接的サービスの内容、教育啓発運動、介護保険下の地域リハビリテーションの今日的課題、機能訓練事業の意味等について学習する。	3 後	30	2	○			
○		地域理学療法実習	地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法知識・技術がどのように活用できるかを、施設の見学を通して学ぶ。	3 後	30	1				○
○		臨床評価実習	臨床現場において実習指導者の指導監督の下、情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案までの実習を行う。	3 後	180	4				○
○		国家試験対策講座Ⅰ	国家試験の出題傾向や科目ごとのポイントについて学ぶ。	3 後	30	2	○			
○		臨床総合実習	理学療法の過程（情報収集、問題点の抽出、目的設定、理学療法プログラムの立案、理学療法プログラムの実施、再評価等）を体験し学習する。	4 前	720	16				○
○		国家試験対策講座Ⅱ	国家試験の出題傾向や科目ごとのポイントについて学ぶ。	4 後	300	20	○			
合計				52科目	単位時間 (161 単位)			